

はじめに

私はよく中国語の学習を「建物を建てる」行為に例えて説明します。発音の部分は土台を整える基礎工事、文法は建物の骨組みを構築する躯体工事、そして単語や決まり文句などのフレーズはその建築材料のようなものです。しっかりした建物を建てたいのであれば、まずはきちんとした基礎工事と躯体工事を築くのが絶対条件であるように、中国語をしっかりとマスターしたいならば、発音と文法をきちんとマスターしておくことがとても重要なのです。

5千年の歴史と文化の中で形成された中国語はまるで一つの大きな高層ビルのようなものです。基礎工事の発音は深くで音節が多く、躯体工事の文法は複雑で組み立てにくく、建築材料の語彙とフレーズは多くて使用方法が難しいです。

特に中国語の発音はどの国の言葉よりも音節が多く、さらに4つの声調などにより音調の変化も複雑で、初心者にとっては難関の1つとなっています。この難しい発音を習得するために全学習量の40%が費やされるほどです。

しかしながら数多くの日本人（中国語の初心者・経験者の中の挫折者）が中国語を学ぶ際、まず悩むのがその発音の練習方法でしょう。日本語の発音の種類が、五十音+濁音・半濁音・拗音・ん・っなどを入れても全部で100ぐらいしかないのに対して、中国語は、音節の数が約400、それぞれの音節には4つの声調（アクセント）があるので、約1,600種類にもなります（本書の発声法編の「中国語と日本語の音節対照表」を参照）。ですから日本人が中国語の全ての音を発音する場合、口の中の発声部位を母国語を話す時の15倍も多く使わなければなりません。具体的に言いますと、今まで使ったことのない口腔内の部位を使ったり、力強く声帯を振動させたり、舌を巻き上げたり、聞いたこともない音やリズムを耳でキャッチしたり等々、どれをとっても初心者を苦しめ、混乱させ、挫折感を与える原因となります。その結果、中国語の学習を諦める方も少なくないのです。